

障がいのある人たちだけの ビジネスを構築したい

九州福祉会 代表理事

増田 利明 さん (千丁町)



「モットーは、握った手は離さない」と語るのは、九州福祉会で代表理事を務める増田利明さんだ。

農業コンサルタントとして働いていた頃、農家に障がいのある子がいた。『この子たちの将来はどうなるのだろう』と思った。それから就労支援に関する認可や資格など、さまざまなことを調べて就労支援協会を立ち上げた。現在は新たに創設した九州福祉会の代表理事として知的障がいや身体障がい、精神障がいのある人の就労をバックアップしている。

「障がいのあるお子さんを持つ親御さんが一番大変ではないのかと思う」と増田さん。『自分たちの時間が作れない』『地域の活動に参加できないことがある』などの問題を解消すべく事業所を立ち上げた。事業所は、障がいのある人の教育や療育が目的ではなく、家族に何を提供することができるかだ。

増田さんは、障がいのある人と一緒に働いて気付いたことがある。それは『精

神障がいの人たちは健常者とほとんど変わらない』ということだ。しかし、精神障がいのある人たちはネガティブ思考に陥りやすい。そのため、『あなたたちはできるんだ』ということを前向きな言葉で表現し、明示することで自信を積み上げる手助けをしている。また、就労を支援する際には、障がいのある人が落ち込まないように笑顔を引き出すことが一番大切であるため、支援する側は常に笑顔でいることを心がけているそうだ。

支援をする中で思うようにいかないことも多々ある。例えば、支援を続けるがなかなか改善しない場合だ。「私たちが考えている支援が本当に役立つのだろうか」と自問自答してしまう」と増田さん。確固たる答えが見つからないときに、このまま続けていいのか考えてしまうが、自分の答えを見つけるために時間を費やすのではなく、まずは目の前で困っている人に時間を割こうと思ったそうだ。障がいのある人に対する就労支援事業があることを知らない人もいるかもしれない。「こういった事業所があるということを知ってもらい、活用していただきたい」と増田さん。今後の抱負をこう力強く語った。「2、3年のうちに、障がいのある人たちだけで成り立つビジネスの構築を目指す」と。



▲就労支援施設の一つ「Cafe アウル」
(厚生会館敷地内)



2016.APRIL

No.136

- 3 市立博物館 春季特別展覧会
円山応挙・京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび
- 4 臨時福祉給付金について
- 5 ワンコイン特定健診と複合健診
- 6 国民健康保険税の仮算定
- 7 後期高齢者医療制度
- 8 介護保険料の仮徴収
- 9 地域支援事業について
- 10 八代市自立相談支援センター
- 12 道路などへの広告物の設置について
- 13 古閑中町宅地(保留地)分譲中
- 14 愛犬に狂犬病予防注射
- 15 市税納期一覧表
- 16 暮らしの情報
- 18 市民カレンダー
- 20 暮らしの情報
- 31 広告
- 32 まちのわだい
- 35 伝言板
- 36 プロ野球ウェスタン・リーグ公式戦

今月の表紙

2月26日、全国各地の畳屋さんネットワークで活動する畳屋道場のメンバーと、県内の職人が松浜軒の畳を手縫いで張り替えました。詳細は「まちのわだい」32ページをご覧ください。